レッスン：33 “Ｍ”

テーマ：ピラミッドとその目的

MAC.“33”/EN/DOC

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット・光・火の子供たちよ。私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

以前のレッスンで私たちはthe Widest of Heavens（＊最も広大なヘブン）について述べ、the Widest of Heavensは絶対存在の本質の現れであり、またそれ自体の中で創造する本質の一部である、と述べました。その現れの結果として、キリストロゴスとしての絶対存在の他の二つの特質、つまり汎宇宙的ロゴスおよび聖霊があるのです。The Widest of Heavensのシンボルは八芒星であり、また八面ピラミッドです。この諸宇宙のいかなるモナドもこれらのシンボルにアプローチすることはできません。The Widest of Heavens　PanAyiaは全体性の現れです。いかなる人間も、そして魂のセルフ・エピグノシスでさえこのレベルにアプローチする、つまり近づくことはできません。

最近のレッスンにおいて、ピラミッドの様々なタイプについて話しました。三面ピラミッド、四面ピラミッド、五面ピラミッド、六面ピラミッド、七面ピラミッドです。

それらのピラミッドの中には、人間がLifeの現象の諸世界にいる間にアプローチできるものもあれば、魂のセルフ・エピグノシスだけがアプローチできるものもあります。別のタイプのピラミッドもありますが、それは実際にはピラミッドではなく、人間の気づきによって創造されるものであり、それは一面ピラミッドです。それは人間の回転する意識の結果です。

人間の回転意識とはどういう意味でしょうか？回転意識について人は何を理解するでしょうか？それはあらゆるところに、あらゆる方向に限界なしに広がっている意識です。このピラミッドは人間のサイコノエティカルな進歩の特定のレベル（それはプロセスの中で非常に多くのパワーと能力を提供します）を示しています。

この種のピラミッド、それは気づきの上昇の結果ですが、サイコノエティカルな上昇なしに単にパワーと能力を発揮することが唯一の目的である人間が、このようなピラミッドに適切に近づくことができると思いますか？答えはノーです。

過去において、そのような人間がそれに近づこうとしましたが、適切な仕方で意識を広げるそのようなピラミッドにアプローチすることは不可能でした。

彼らはテクニカルな手段でその能力をマスターしようと練習したのですが、結果は彼らの潜在意識に貯蔵されているものを経験するだけでした。

なぜでしょうか？その理由は、人間が無知のなかにいて、いわゆる本能的意識のセルフ・エピグノシスを表現している間は、その人は四面ピラミッドの限界のなかにあるのみならず、ピラミッドの底部の下、地面のある深さのところにいるからです。というのも、彼が地上的なもの、つまり物質の魅力にあまりにも魅惑されているからです。

この段階にある人間は経験を通じて徐々に潜在意識的意識のセルフ・エピグノシスを表現し始めますが、しかしまだ四面ピラミッドと結びついています。

彼はこの段階で地面の表面に到達できるようになるでしょうか？まだ不可能です。

彼が意識的に生き始めるとき、彼が意識的意識のセルフ・エピグノシスを表現し始めるとき、その時初めて表面に到達し、地面に立つようになります；

その時初めて、人間は四面ピラミッドの真ん中に立つようになり、その結果気づきの上昇に向かって真のワークをスタートするのです。

さて、過去の人間はこのポジション、つまり気づきの上昇に向かって本当のワークを始めるレベルに到達できたと思いますか？ノーです。なぜなら、自分のイリュージョンの中にいる人間は自分がピラミッドの中に立っていて、やるべきことはただ頂上に昇ることだと思っていたのですが、実際には彼はピラミッドの底部より下に立っていて、地面に面していたのです。彼はそれがイリュージョンであることを認識できなかった結果、彼が立っていたピラミッドは実際には逆さまになっており、二つのピラミッドを持つ結果となったのです…地面に底部があり上に向かっているピラミッド、そして地面から地中へと下向きになっているピラミッドです。そうです、人間にとってピラミッドの頂上に達するのは簡単なことだったのですが、しかし実際には彼は気づいていなかったのですが、彼が昇ろうとしたピラミッドは地面の中へと向かう下向きのピラミッドであって、それは土および土の中のあらゆるエレメンタルと混じりあっていたのです。

確かに彼は多くのパワーと能力を発揮することができたのですが、それは地面、土、地、様々なエレメンタル、悪魔、無知のなかにある人間の創造物と同調した結果だったのです。その人間はそれらのエレメンタルに助けられてパワーと能力、多くのパワーを表現することができ、群集の目から見ると彼は半神のように見えたのです。

Page2

それでは一面ピラミッドに戻りましょう。生憎、イリュージョンのなかにいる人間はおそらく一面ピラミッドにアプロ－チして、回転意識を達成することは不可能でした；

実際、彼にできることは彼の潜在意識のマインドにあるものを経験することだけでした。このアプローチは他のタイプのピラミッドにも当てはまりました。彼らが到達できたことはそれらのピラミッドの反映であり、彼らが体験したのは自分たちのイリュージョンの結果でした。三面ピラミッドは彼らのイリュージョンによっても到達不可能でした。なぜなら、前に述べたように、このピラミッドは私たちの真の本質、つまり絶対英知・絶対善・絶対パワーという三つの特質の現れを象徴しているからです。それゆえ、無知の中にある間は、サイコノエティカルな上昇に向かってワークするこのピラミッドに近づくことは不可能だったのです。

四面ピラミッドに戻りましょう。人間が四面ピラミッドの頂上に到達するためには、様々なレベルのサイコノエティカル的上昇が必要です。最初のレベルはピラミッドの底部の下、地中にあり、人間は本能的および潜在意識的意識のセルフ・エピグノシスを表現しています。二番目のレベルは地上にあってピラミッドの中に立っており、それは意識的意識のセルフ・エピグノシスを表現しています。ピラミッドのなかにはさらに二つのレベルがあり、それらのレベルは人間が超意識的意識のセルフ・エピグノシスの様々なレベルを表現し始めるときに到達できます。最後に、人間はピラミッドの頂上に到達し、立つようになるでしょう。それはサイコノエティカル的上昇の五番目のレベルで、四つのエレメントのマスター、現在のパーソナリティーの諸体のマスターとなり、そして超感覚を完全に表現し、超意識的意識のセルフ・エピグノシスを完全に表現していることを示しています。人間はさらに、六芒星および三面ピラミッドによって提供される能力を現すこともできるようになります。

また、無知のなかにある間は人間は四面ピラミッドを逆さまにしていますが、さらに生命の木をも逆さまにしていたのです。不幸なことに、これは現在でも本、および様々なグループによって広められています。

生命の木を逆さまにする目的は、パワーと能力の目覚めと関係している他のセンターを刺激して活性化するために、創造的エーテル、つまりクンダリーニのセンターからエネルギーを送ることです。

クンダリーニから送られるエネルギーは、実際には様々なカテゴリーのエレメンタルを活性化しました；人間の創造物であるエレメンタルです。その人間がパワーと能力を現していたという事実にもかかわらず、彼はそれらのエレメンタルの操り人形だったのです。なぜなら、それらのエレメンタルは存在し続け、生き残るために彼のエネルギーを吸収していたからです。

真剣な真理の探求者にとって、逆さまの生命の木のようなメソッドはいかなる状況においても許されるものではありません。「いかなる状況においても」という言葉は非常に重要です。なぜなら、

たとえ同胞の人間を助けたいと願って、その目的が厳格に気づきの上昇だけに限られていないメソッドを習得する場合、その人はそうとは知らずに人間のヒポスタシスの真のセンターの反射、反映である諸センターに働きかけることになるからです；そのような反射のセンターは無知と対立二元性に奉仕する「エネルギーを吸い取るエレメンタル」とのみ結びついているのです。

真理の探求者が道に入るには、自分の弱点を認識し、自分の周囲に気づいており、四面ピラミッドの下にある部屋（それは“死者たち”と一緒に無知の中にある現在のパーソナリティーの居場所）に自分が立っていることを認識していることが大前提です。このワークにおいては忍耐と開かれた心が絶対に必要です。なぜなら、ピラミッドの底部に到達するためには多くのワークが必要だからです。

Page3

探求者が自分自身の現れを上昇させ、四面ピラミッドの底部に立っている自分を見出すために「何であれ必要なこと」を得ようと試みるのは、この部屋の中から、このポイントからなのです。なぜなら、探求者にとって本当のワークは四面ピラミッドの中から始まるからです。真理の探求者が行うワークが探求者にはっきりとわかる体験を与えるのは、四面ピラミッドにおけるこのレベルです。

あなたは逆さまの生命の木のリアリティーを認識する必要があります。というのも、あなたが本当のワークを始めるとき、あなたの潜在意識からそれらが浮上してくることがあるからです。そのようなときには、あなたはそれらを再び下に押し込める必要があります。あなた方の中には、今晩私たちが述べたことを過去生において経験したことがあるかもしれません。もしあなたがそれらを下に押し戻し、それらにフォーカスしなければ、それらはエネルギーを失っていくでしょう。しかし、もしあなたがそれらにフォーカスすると、それらは表面に留まり、あなたはそれらにフォーカスせざるを得なくなるのです。それらから自由になる唯一の方法は、潜在意識のマインドの海のなか深くに押して入れてしまいうことです。そうすれば、徐々にそれらはエネルギーを失っていきます。

地にフォーカスすることによって諸センターにワークすることになる、ということを理解する必要があります。それは意識の上昇とはまったく関係ありません。むしろ、地に関係する潜在意識と同調し、また特に低いバイブレーションのエレメンタルを活性化してパワーと能力を表現することになります。これは潜在意識のマインドに同調することによって人が常に低バイブレーションのエレメンタルと同調する、という意味ではありません。

なぜなら、通常あなた方は自分のバイブレーションと同じレベルのものに同調するからです。

ですから、次の点を除けば、潜在意識のマインドと同調することそれ自体は悪いことではありません…それは低次のエレメンタルと同調する危険が常にあること、および非常に低レベルの気づきによる出来事の結果（成長した現在のパーソナリティーは既にそれを受け入れることができない）を表面に浮上させる危険があることです。

従って、最良のものにフォーカスしない理由がどこにあるでしょうか？勿論、最良のものとは潜在意識のマインドをトータルしたもの、つまり現在です。各現在の瞬間は潜在意識のマインドが提供するもののトータル、総計であり、（＊その人において）より良いもの、ベストなものです。

もし過去にフォーカスすると、それはある特定のポジションにフォーカスすることになり、その（＊過去の）現在の瞬間のトータルな結果を得ることになります。それゆえに、私たちの準備ができる前に

過去にフォーカスすること、潜在意識のマインドにフォーカス、あるいは汎宇宙的潜在意識のマインドにフォーカスするのは間違っているのです。というのも、もしそうすると、ある特定の出来事のみに、特に私たちが振動しているのと同じ波動の出来事にフォーカスすることになるからです。

それゆえ、私たちは決して後ろを振り返ってはいけません。重要なことは現在の瞬間・瞬間としての過去の達成であり、次の現在の瞬間がベストなものであり、より良いものなのです。はっきりわかりますか？

**質問**：地面の中に、部屋の中にいる私たちのレベルに何か意味があるのでしょうか、またそのレベルは各パーソナリティーの気づきのレベルを意味しているのでしょうか？

**答え**：まず始めに、全ての人は四面ピラミッドの下にある部屋の中の同じポジションから、同じレベルの気づきと共にスタートします。

そして全ての人は意識的意識のセルフ・エピグノシスの表現に到達して、四面ピラミッドの底部に立つことができるようになるまで、その部屋に留まります。

そのパーソナリティーは反対の方向を向いて四面ピラミッドの中央に立っています。なぜ反対を向いているのでしょうか？なぜなら、前に説明したように、その方向は鏡のようなものだからです。私たちはその鏡のなかに自分自身を見ているのです。私たちは自分のイメージを見、自分のイメージを愛し、自分のイメージに魅せられ、自分のイメージに真の自己に向けるような重要性を与えているのです。その人がそのポイントでは意識的に生きているにしても、そのパーソナリティーが現在のパーソナリティーの弱点から自由になっているというわけではありません。

**質問**：しかし、もし私たちが自分の弱点を知っているなら、その自分の弱点に魅せられることはないと思います。

**Ｋ**：それについて考えてみてください。そうすれば、ほとんどの人々はそうであることがわかるでしょう。彼らは何かが間違っていると知っているのですが、それでもそれをするのです。

引きつけられてしまうその状態からパーソナリティーを自由にする一つの方法は、意識をイメージの中へと移行させ、あなたの言動、行動、弱点を見るようにするのです。あなたはもはやあなたのイメージを見ることはなく、むしろあなた自身を見るようになるでしょう。それは簡単なことではありません。望ましい結果を達成するための鍵は、多くのワーク、多くの練習、多くのエクササイズです。忍耐をもってください！

私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA/SE/PYRM9/KE4+EXERCISE PYR.4

エクササイズ：CAT/PYR.4/ KE4/9/1

心を落ち着かせ、あなたの心を騒がせているもの全てを解き放ちます…真っ白な自分自身をイメージし、あなたの形の境界を感じます…あなたは純白であり、正方形の部屋、四方が光の壁の部屋に立っています。

　あなたの前の壁は白い光を放ち…あなたの背後はホワイトブルーの光を放っています…右の壁は赤い光、左はウルトラ・バイオレットです。四つの光の壁の中であなたは真ん中に立っています。

さて、この正方形の中で、それらの光の壁からそれらの輝きが空間に入ってくるのが見えます…空間全体がそれら四つの異なった輝きで満たされています。しかし、それぞれの輝きは純粋なままです…つまり、他の色と混じることはありません。そのために、正方形のなかの空間は四つの部分に分けられ、各部分は三角形になっています。各三角形の底辺はその特定の輝きを放っている壁であり、各三角形の頂点はあなたが立っている正方形の中心で…四つの三角形の頂点は同じです。

あなたは純白であり、同時にそれらの光の壁からの輝きによって影響されています…あなたの前面は純白の輝き…背後はホワイトブルー…右は赤…左はウルトラ・バイオレットです。ウルトラ・バイオレット、赤、ホワイトブルー、そしてホワイト…あなたはこの正方形の真ん中に立っています。

それでは、右手に90度回転します…あなたは赤の輝きに面しています…そして自分自身を開き、何であれこの輝きがあなたに与えることのできる影響すべてを受け入れます…次に左に90度回転します…再び純白に面しています、あなたは自分自身のイメージと向かい合っています…今度は右へ180度回転し、今やホワイトブルーの輝きと向かい合っています…あなた自身を開いて、ホワイトブルーからの影響を受け入れます。それでは左へ180度回転し、再びあなたは自分自身のイメージ、純白と向かい合っています。それでは左に90度回転しウルトラ・バイオレットに面します…あなた自身を開いて、この影響を受け入れます。右にまた90度回転し、再び自分自身のイメージと向かい合います。

今度はこの位置から、全てのサイドに面したことによってあなたが経験したこと全てを同時に自分に持ってきます…他の三つのサイドにフォーカスすることによってあなたが体験したこと全てを同時に自分にもたらします…同時に赤にフォーカスし、ホワイトブルーにフォーカスし、ウルトラ・バイオレットにフォーカスし、そしてあなた自身のイメージである純白にフォーカスします。

それでは、あなた自身のセルフ（自己）にフォーカスします…他の全ての輝きは完全に消えています…もはやあなたはその正方形に立っているのではありません…壁も何もありません…ただ自分が立っているのが見えます。どこに立っているのでしょうか？…それは重要なことではありません…ただ自分が立っていて、純白の輝きになっているのを見ています…今あなたは自分自身を全ての方向から見ています…どこからあなたが自分自身を見ているかは全く別問題です、あなたはただ自分が立っていて、純白の輝きになっているのを見ているのです…

私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA/EXERCISE PYR4/ /KE4/9/1